基本構想審議会第２部会　「第１回の主な意見の整理」

基本構想の内容等について

○ 誰もが住みやすく（高齢者、子ども、障害者等多様な人を受け入れられる社会）、社会的孤立の無くすような地域を創っていくことが大事。その上でキーワードになるのが「多様性、共生」。分断された社会は健康にも悪い。

○ 地域共生社会を創るためには、多世代型の地域包括ケアシステムの他、自助・互助・共助・公助を横串にして考える必要がある。

○ 人生 100 年時代を支える、在宅をベースに最後まで暮らし続けられるまちづくりが必要。

○ 人と人とのつながりに着目したコミュニティにおいて、国が示す「連携法人化」の考え方は、地域共生社会を考える中で大きなキーワードになる。

○ 暮らしの持続という観点から、基本構想の柱には、気候危機対策が重要と考える。

○ ピクトグラムやデザインを用いるなど工夫して、ビジュアル化した 10 年後の姿を区民と共有していくべき。

○ 今後 10 年は、「コロナ禍における〇〇」といった形で、コロナ禍がキーワードになる。

○ 立場の違う人たちの議論によって新しいイノベーションを提案する。ＡＩを活用して飛躍的なアイデアを発想するなど、「共創」「産学連携」がキーワードになる。

福祉・医療・健康について

○ 高齢化率は上がらないかもしれないが、高齢者数は増えていく。介護・医療あるいは福祉の需要が増えていく中で、80 歳を超えて終末を迎えるための福祉の取組は必要。また、保育だけでなく学齢期への対応を充実させることも必要。

○ 高齢者対策がこれからの課題。特に、一人暮らしになった障害者への対策を考えなければならない。

○ 一人暮らしの高齢者が多くなっている。コロナ禍で鬱・認知症が進まないような対策が必要。

○ 空家やゴミ問題の背景に、福祉が課題となることがある。表面的な課題だけでなく、潜在的な課題を見極めて対応することが必要。そのためには、地域に入っていく人（マンパワー）が欠かせない。

○ 当事者支援だけでなく、支援者支援、ダブルケア世代へのサポートの視点が必要。介護等に関わっていない人たち（若者など）が、どうやって人を支えていくのかといった視点も必要。

○ 医療の適切な分配をどう進めていくか。必要な人に必要な支援をつなげていくことが大事。

○ 数の理論では、ダイバーシティを妨げる可能性がある。一人ひとりのＱＯＬを考慮しつつ、多様な人々が生き続けられるまちを目指すべきである。

環境について

○ 広義の環境分野で考えた場合、「気候変動のリスクを減らす」、「地産地消（エネルギー・食べ物・生物の地元ファースト）の大きなトレンドつくる」、「地域循環型社会（廃棄物等）のトレンドをつくる」ことを基本構想の方向性で示すことが必要。

○ リサイクルだけでなく、リデュース（減らす）として区は取り組んでいくべきである。

○ 環境については、保全か順応か、限られた時間の中でどこにポイント絞って議論をすべきか。議論

の進め方は難しいと感じる。
コミュニティについて
○ 町会・自治会などのこれまで培ってきたコミュニティと、地域の中で新たに生まれてくるコミュニティを融合させる考え方や取組が必要。 ○ 福祉のすべての課題を行政が担うことは難しい。地域の人たち同士でどう支え合うかが課題。 ○ 地域の見守りや支え合いで、支援が必要な人の社会的孤立を防ぐなど、誰もが住み続けられるまちにしていく必要がある。 ○ 地域包括ケアシステム、地域包括センターを中心とした地域のネットワークは非常に重要。例えば外来以上在宅未満といった患者を支えるには、まちの人の力が大事。いわゆる隣組が声を掛けあうなど、コミュニティを取り戻していく必要がある。 ○ 隣組が声を掛け合うなど住民同士のコミュニティを取り戻す必要があるのではないか。 ○ 高齢化が進む中、多世代の方、特に若者が地域活動（町会等）に参加する仕組みづくりが必要。 ○ 動物の飼い主達は公園などに集まり、一定のコミュニティを持っている。こういった既存のコミュニティを活用できないか。 ○ 高齢者の居場所を充実させ、自然とコミュニティが形成されるよう促していくことが必要。 ○ 区は人口増が見られる一方で、地域のつながりが希薄化している。孤立化により、必要な人の支援に繋がらない懸念も高まることから、人と人との支え合いが大事で、「共生」「横串」がキーワードになると考える。 ○ コミュニティは「地域＝空間」といった地理的なつながりだけでなく、「人と人とのつながり」にも着目して考える必要がある。 ○ SNS が発展している中でリアルなコミュニケーションがどこまで復活できるか。また、孤立化やコミュニティに関しては、ほどよい見守りが必要だと考える。この点デジタルの話と関係してくる。
その他（他部会への申し送り事項等含む）
○ 区内でも地域的な特性があることを念頭に議論する必要がある。 ○ 区内の人口は今後も増加していく。人口が減っていく印象は持てないので、「高齢化率が上がらないまち」ということでまちの活力は維持されるのではないか。 ○ 現在の基本構想を策定し、この 10 年間でどうなったかの検証は必要。 ○ 議論を進めるうえで、基本構想の段階から、指標や明確なコンセプトを定めて、取組に方向性をつけていくことを考える必要がある。そして、実効性のある計画につなげていくまとめ方ができるとよい。 ○ 区内の保育所が増えたため、以前のように園医が毎週診察に通うことができなくなっている。 ○ この 10 年、高齢者・障害者福祉は充実したと感じている。 ○ 大雨対策としてグリーンインフラの整備を進めていく必要がある。 ○ 震災救援所の問題として、区は「スフィア憲章」を満たしていない。次の 10 年間で目指すべきである。